

三川小がより

旭市立三川小学校 児童数207名
No.12 平成30年2月23日(金)

☆ 学校教育目標 「自ら学び、心豊かでたくましく、ともに助け合う児童の育成」

☆ 子どもたちとめざすスローガン! 「よく学び、よく遊べ!そして、助け合う 三川っ子!」

発行責任者 校長 櫻井良敬

平成30年度以降の三川小の教育課程を考える No.2

本校では、2学期制への移行を考えています。

Q1 『2学期制って何ですか?』



2学期制とは、1年間を10月の3連休を境に「前期」「後期」の2期に分けて実施するものです。下図は、今年度の授業日数を2学期制と3学期制で考えた場合どうなるかを表したものです。2学期制と3学期制ともに年間の授業日数は変わりません。また、夏休み・冬休み・春休みの日数および時期も変わることはありません。



学習活動の時間を生み出すための工夫として、「2学期制」としたのです。

通知表が2回となりますが、あわただしい時期である学期末(7月・12月)がなくなり、長期休業日直前までじっくりと授業が行えるため、学習活動の時間の確保ができ、ゆとりをもって子どもたちとじっくり取り組む授業を行うことができます。

また、担任が長期休業前に行っていた成績関係の事務作業を長期休業日中に行えるため、学習の定着の時間や子どもたちと向き合う時間が確保できます。

子どもたちとゆとりをもって学習と生活を送るための工夫でもあります。

Q2 『どうして2学期制への移行を考えているのでしょうか?』

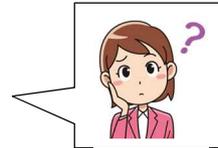


学期に関しては、現行の3学期制が定着していることや季節感、長期休業という区切りから保護者の方も含めて、3学期制のほうが児童の生活リズムに合っているという考えが強くあります。

また、前・後期も、10月の3連休をはさんでのことで区切りがはっきりしないなど、2学期制はなじまないという意見が根強くあります。

しかし、先にも述べさせていただきました(No.10)ように、2020年度の学習指導要領改訂に伴う学習環境の変化により、授業時間の増加と授業作りや評価に、これまで以上に時間が必要となります。子どもたちとゆとりをもって学習と生活を送るための工夫が必要となり、その方策として、「2学期制」への移行を考えています。

Q3 『授業時間の増加はどうして必要なのでしょう？』



◇授業時間が必要となってきました

次の2つの視点からです。

(1) 2020年度の新学習指導要領がねらう授業づくりのため

新学習指導要領の趣旨を実現する授業の実施が望まれています。これは、「主体的・対話的で深い学び」と言われる授業づくりを行うことです。①学習規律の確立、②基礎的・基本的な技能の習得には時間が必要です。その上に立った、③主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくりをしていかなければなりません。これには、各教科で授業時間が必要となるでしょう。また、④これまでの道徳の時間とは違う道徳科の授業づくりと評価、⑤3・4年生の外国語活動と5・6年生の外国語の授業づくりと評価が加わります。やはり、授業時間が必要となります。

(2) 子どもたちの豊かな心を育てる充実した行事等を行うため

行事等とは、学校行事や児童会活動、学校独自の教育活動のことです。「行事等を減らせば、授業時間を増やすことができるのでは」という意見もあります。確かにこれらをカットすることで教科等の授業時間の確保につながりますが、果たして子どもたちにとってそれはよいことなのだろうかと考えています。

これらの活動は、子どもたちの自己肯定感や活力を育む「心の教育」の充実を目指す集団活動や体験活動の時間です。精選は必要ですが、決して無くしてはならないと考えています。現在取り組んでいる子どもたちの豊かな心を育てる活動は継続、発展させていくべきです。そのために必要な時間を確保したいと考えています。

以上のように、新学習指導要領がねらう授業づくりと子どもたちの豊かな心を育てる活動の継続と発展のために、これまでの学校の活動に加えて、子どもたちと向き合いじっくりと取り組む手間と時間が必要だと考えています。授業時間の確保だけでなく授業時間の増加は必須事項となります。これは、子どもたちの成長を願ってのことでもあります。

次号(26日発行)では、2学期制に変わることは、子どもたちにとってどうなのか。メリットやデメリットについて説明をしていきます。

